

朝田構成員提出資料

1 認知症高齢者の実態把握調査 病院種別の患者特性に差異はあるか？ 速報版

筑波大学大学院 精神医学
朝田 隆

2 目的

- ・本人の状態に適した環境で生活しているか？
（相応しい医療サービスが提供されているか？）
- ・病院機能に応じた患者受け入れができていますか？
↓
- ・そうでないとしたら、その障害要因は何か？
- ・病院種別の患者特性に差異はあるか？
→ 実態を把握する

3調査方法 その①

日本病院会
日本医療法人協会
日本精神科病院協会
全日本病院協会
日本慢性医療協会

に所属する6,071の病院の
中から2,200病院を
無作為に抽出して調査票
を送付。



認知症患者に対応していると返答した病院に、患者特性
や入退院の動向等について回答を依頼した。

4回収率

662病院の内訳

回収率は30%
662病院からの回答

臨床個人票
3,861枚

精神病床	244
(うち認知症病棟)	125)
療養病床	105
一般病床	307
その他	6

病院種別はもっと複雑だが、ここでは便宜的に圧縮

5調査方法 その②

- ・ 回収率向上に奏功したと思われるのは、以下の二点である。
 - ・ 未回収の医療機関に対して、手紙、ファックス、電話等で複数回、提出協力を依頼した。
 - ・ 現場の声を行政に届けたいであろう記載担当者の提出モチベーション向上を期待して、調査票の中に、ケアの工夫や問題点、認知症ケアに有効と思われる研究テーマ等についての自由回答の設問を設けた。
- ・ 回収後に入力・集計されたデータを下に、結果を纏め考察した。データの集計と解析にはSPSSver.18を用いた。

本調査票は合計8頁の全体票と個人票からなり、設問数は33問におよぶ。別紙参考資料

提出協力病院は、質問項目の多い本調査票に回答を寄せる労を厭わない性質があるかも。本調査の標本には、母集団の中でも意識の高い病院によるバイアスがある可能性も否定できない。

考察する際には、この点にも留意した。

6病院種別に差異はあるか？

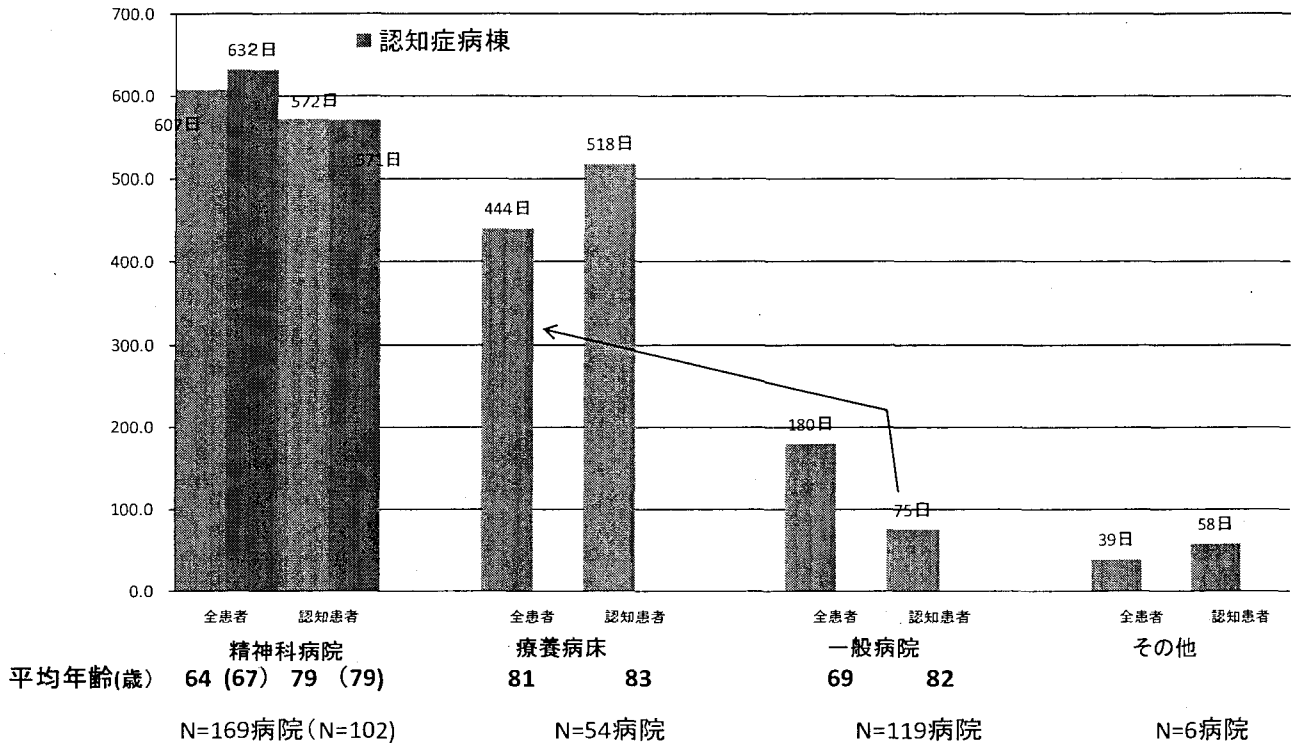
まず、病院の話を聞こう！

施設概要調査から読み取る病院種毎の特性、

患者特性、入退院の経路など・・・

7病院種別の平均在院日数と平均年齢

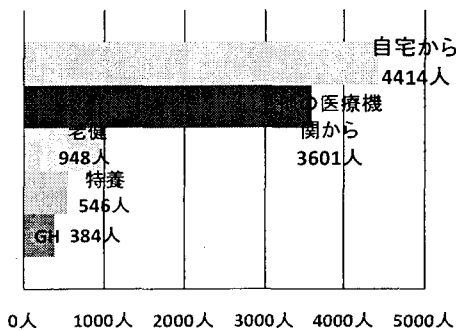
入院患者の平均在院日数と平均年齢(全入院患者 vs. 認知症患者)



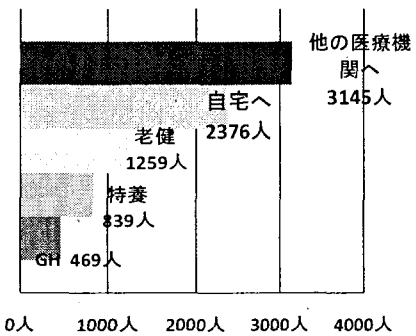
8病院種別の入退院者の動向

H20年度の精神病床への(からの)認知症入退院患者:
どこから入院し、どこへ退院していったか?

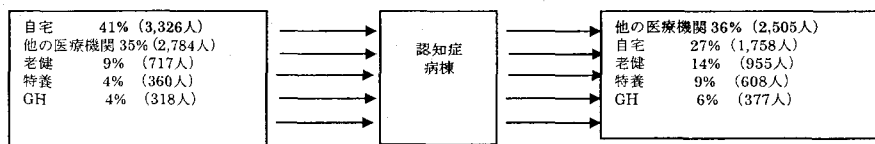
精神病床への入院者 (合計10,572人)
(N=169病院)



精神病床からの退院者 (合計 8,736人)
(N=169病院)



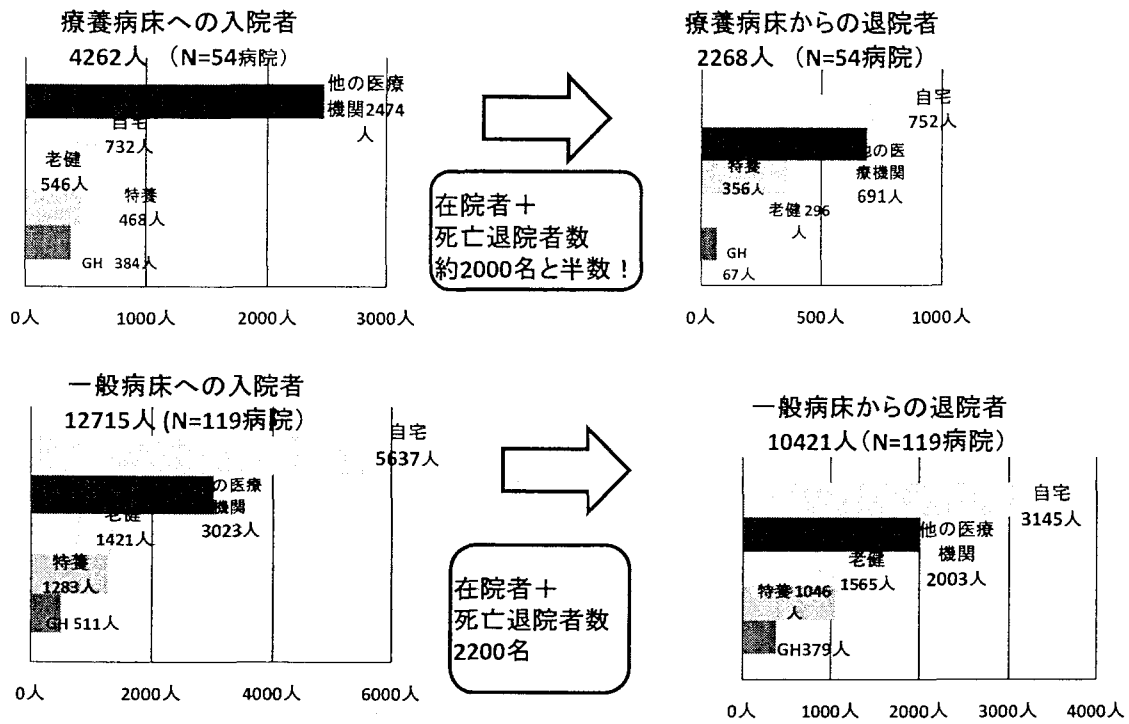
在院者+死亡退院者
1800名



認知症病棟: 精神病床全体と同様の傾向

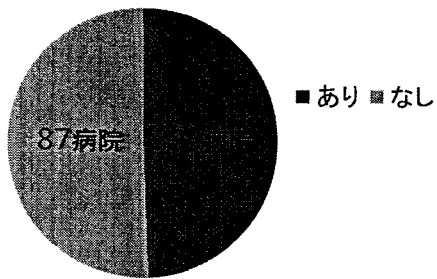
9 病院種別の入退院者の動向

H20年度の療養・一般病床への(からの)認知症入退院患者:
どこから入院し、どこへ退院していったか?

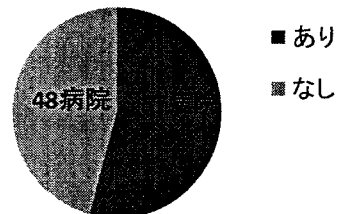


10 紹介元施設からの受け入れ拒否の経験

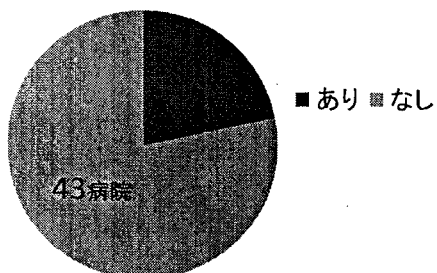
精神病床 (N=168病院)



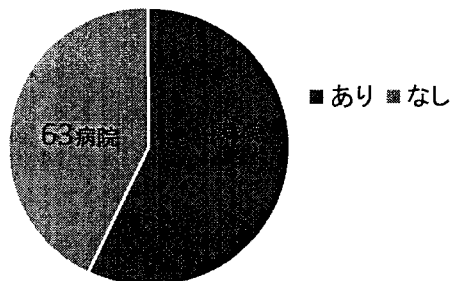
認知症病棟 (N=105病院)



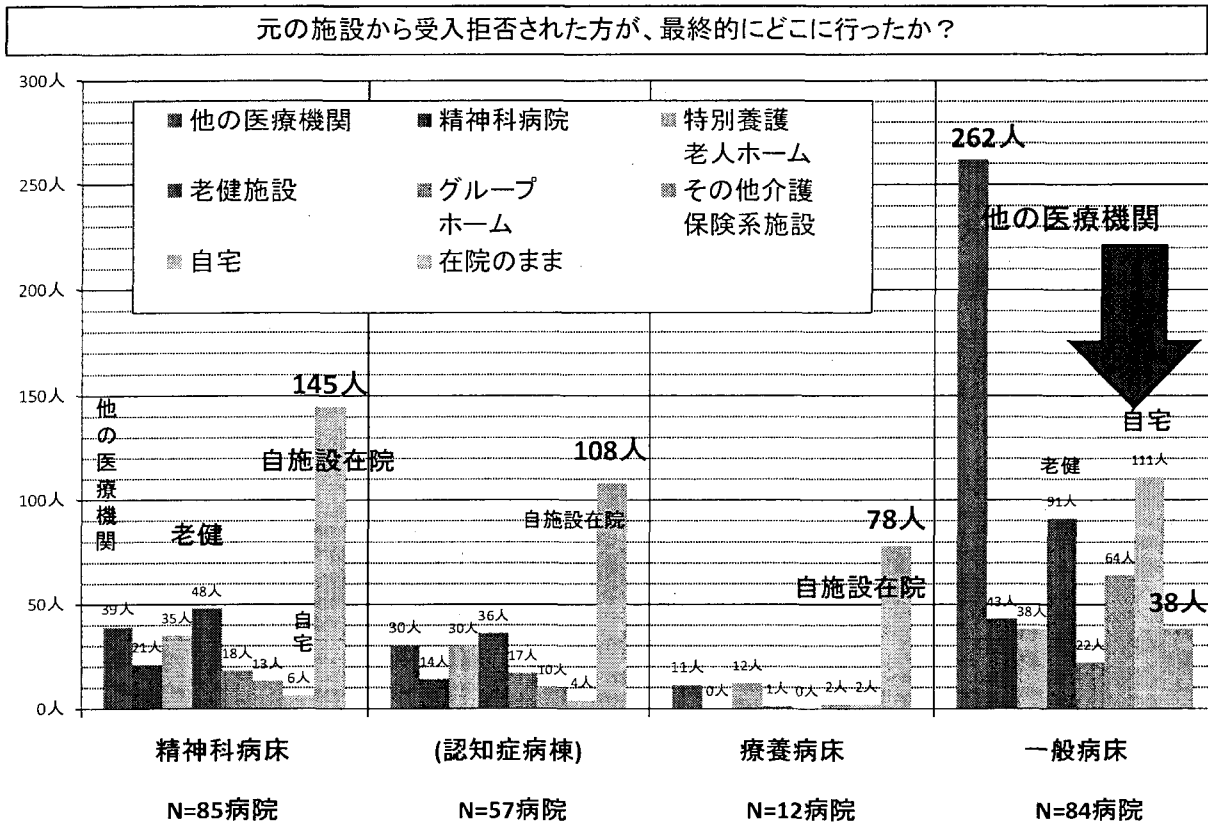
療養病床 (N=55病院)



一般病床 (N=147病院)

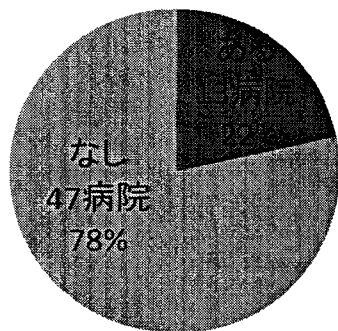


11 紹介元施設から受け入れ拒否後の最終的な行き先

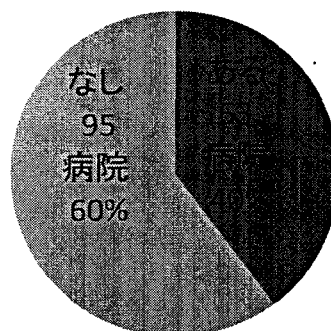


12 退院支援の際の 連携精神病院の有無

療養病床
N=60病院



一般病床
N=158病院



一般病床では6割、療養病床では約8割の病院が、精神病院との連携がない

13病院種別による患者特性があるか？

次は、ひとひひとひの状況を 聞いてみよう！

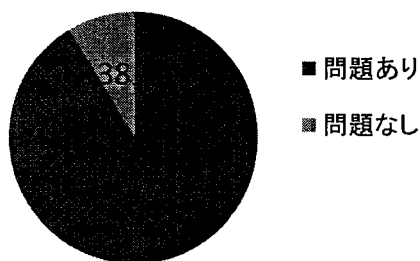
臨床個人票から読み取る患者特性と病院特性
(認知症のレベル、ADL、医療依存度、退院支援状況)

臨床個人票の回答から読み取る

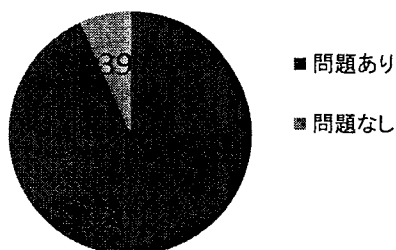
14病院種別の患者特性

① 短期記憶に問題があるか？

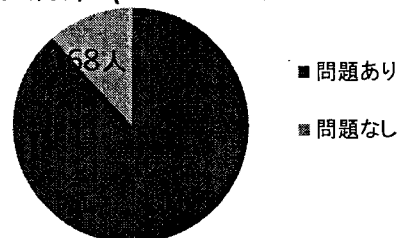
精神科病床 (N=1578人)



療養病床 (N=569人)



一般病床 (N=1578人)

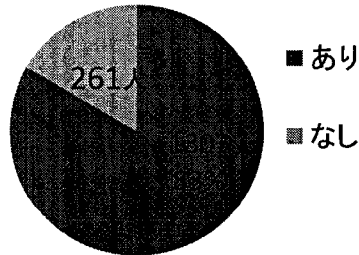


臨床個人票の回答から読み取る

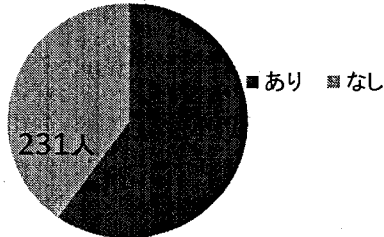
15病院種別の患者特性

② 認知症の周辺症状(BPSD)はあるか？

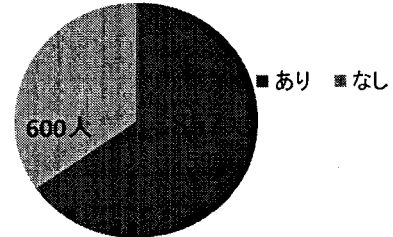
精神病床 (N=1568人)



療養病床 (N=574人)



一般病床 (N=1457人)



臨床個人票の回答から読み取る

16病院種別の患者特性

③ 認知症の周辺症状(BPSD)

(幻視・幻聴、妄想、昼夜逆転、暴言、暴行、介護への抵抗、徘徊、火の不始末、不潔行動、性的問題行動、大声、他の利用者への危害、施設脱走企図)

BPSDの具体的項目の該当者は何人？

(複数回答)

	幻視 幻聴	妄想	昼夜 逆転	暴言	暴行	介護 者への 抵抗	徘徊	不潔 行動	大声	他の 利用者 への 危害	施設 脱走 企図
精神 (N=1568人)	279 17%	477 30%	277 17%	453 29%	223 13%	561 36%	508 32%	309 20%	194 12%	75 5%	21 1.3%
療養 (N=574人)	64 11%	83 14%	102 17%	71 12%	31 5%	148 26%	47 8%	93 16%	64 11%	4 0.6%	7 1.2%
一般 (N=1486人)	154 10%	195 13%	328 22%	185 12%	94 6%	304 20%	221 15%	97 7%	150 10%	6 0.6%	12 0.8%